

「お任せするということ」

豊島 秀龍

浄土真宗は「ただ念仏」の教えです。今回は、その念仏の仕方をお伝えしたいと思います。念仏は「南無阿弥陀仏」と心に念じ、一度に2、3回必ず口に出して称えます。では、一緒にやってみましょう。

南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏
南無阿弥陀仏

今称えていただきましたように、念仏は「南無阿弥陀仏」です。南無とは簡単に言いますと、「全てをお任せする」ということです。つまり、阿弥陀仏に全てをお任せしますという誓いの言葉です。それは、生きることも、老いることも、病気になることも、命を終えることも、全てお任せします。全てお任せしたのであれば、人生において、何を悩むことがあるのでしょうか。私たちは、今自分の人生という一大事を全てお任せすると誓ったのです。

「そんなつもりじゃなかった。取り消して欲しい」と思われた方も、もう遅いので諦めてください。

些細なことですら、信用できる者にしか任せることが出来ない自分です。まして、自分の全てをお任せするなんて想像しただけでゾッとしますよね。けれど我々仏教徒は、そういう「仏」になることを求めていくんです。それは出来る出来ないということではないんです。求めていく。今、阿弥陀様に全てをお任せすることを拒んでいるのが、身に染み付いた煩惱です。これを捨て去ることは出来ないかもしれないけれど、捨て去ることを諦めず、苦しみながらも生き続けることが大切なんです。

それが念仏者の生き方なのだと、私は受け止めています。